

米山忠俊君 今月は誕生月です。うれしいのか、悲しいのか複雑な気持ちです。まずは感謝して。

駒形実君 皆様のご協力で、順調に集まっております。本年は20周年寿特別催事の出費に大変助かっております。あともう少し宜しくご協力お願い致します。

石丸孝行君 ボックスに協力

山崎勲君

ロータリー財団：

山本賢君 息子が医者になりました。大変うれしいです。希望と勇気を私に与えてくれます。

米山奨学会：

山本賢君 R財団と同文

* 3月のコメント賞は今井克義会員です

卓 話： 「ロータリー雑誌月間」雑誌委員会 齊藤興一副委員長

『ロータリーの友を読んで』



ロータリーの友は積ん読書のベストセラーだそうです。私はこの「友」の季節感あふれる表紙の風景と地域の行事や祭りのメッセージ、それに私の好きな一字と私の宝物を見えています。

表紙の風景写真は自然界が造る芸術の極限で、カメラが覗く光の芸術だと思います。それに全国各地域に伝わる伝統文化の紹介である。この写真を見ても優れたカメラマンの目を通し、芸術的な写真とメッセージを読むとそれぞれ地域の人達が伝統文化を大事に守り後世に残す記録写真ではないかと思えます。

私は昨年の9月号の十五夜の写真と豊作に感謝するメッセージが良かったです。「私の好きな字」を読むのは楽しいです。当クラブの皆さんはどんな字が好きなのかな？と考える事もあります。本に出ている字を読んでいるとその人の人格が良くにじみ出ています。世界のクラブの皆さんはどんな文字や言葉が好きなのか心が広がります。

私の宝物は芸術的価値のある物は殆どありませんが本人にとって思い出と何かのきっかけで収集した物が大半である中には文化勲章作家や人間国宝の人の作品もあるが、その人の人間関係の心の宝であり、一般的の美術品ではない。皆様全員が心の宝物、又は大事な物など1回披露する機会があると楽しいかと思えます。他にロータリーの友に俳歌柳壇があり、私はこのページを読むのが一番楽しみです。短い文章の中に思いや、考え、瞬間的出来事などを圧縮させ言葉に表す、言葉の技だと思えます。皆様もお楽しみ下さい。

「友」の昨年の9月号に「人生を考える」と題して三条南RCの馬場信彦さんの書いた記事が出ています。人間の命の尊さとはです。読んでいない会員は是非読んでください。

『戊辰戦争の内五十嵐川から加茂村まで』

慶応3年(1867年)

10月14日將軍徳川慶喜大政奉還を請う 慶喜の腹の内は、石頭の老中を相手にするより新しい考えを

持つ若者達と国造りをしたかたと思う。慶喜は朝廷に大政奉還しても薩長で国の運営は出来ないだろう。いずれ幕府に国造りの相談がある物と考えていた。

12月9日朝廷は王政復古を宣言

1月3日鳥羽伏見の戦い 戊辰戦争が始まる。新政府軍の10倍以上の軍隊を持つ幕府軍は大変強気であったが、戦って見たら大将のいない烏合の衆であった。高杉晋作の作った統一された騎兵隊と錦の御旗の前に難なく破れた。新政府軍を官軍又は西軍と呼ぶ。幕府軍を同盟軍又は東軍と呼んだ。

慶応4年

5月19日長岡落城

6月19日村山半牧三条市史は自決、栄村史は自殺とある。

7月25日長岡城回復

7月29日長岡城再び落城

8月1日三条五十嵐河畔の戦い始まる。三条に集結した同盟軍は五十嵐川の大崎方面に陣を敷き官軍を迎え撃つ。一方、下条村字大原、現コンバータの所に台場を造り守りを固め官軍に備えていた。同盟軍は与板、今町、見附、栃尾から撤退しそれを追う官軍と川を挟んで鉄砲や大砲の撃ち合いが始まり激戦のようであった。場所は西大崎地区と諏訪地区である。同盟軍の野戦病院は三竹の庄屋、小浦方吉右衛門家であった。当主の乙松当時85歳（昭和35年）の語だと負傷者15～6人であった。死者は寺に埋葬したと聞いていた。この冑は左頭に鉄棒の弾丸を受けた物で昭和43年4月頃外に投げてあった物を私が頂いた冑です。同盟軍の撤退の時は重傷の人は戸板で鎧冑はそのままで何がしかのお金を置いて撤退したそうです。官軍は監軍西郷吉次郎隆広36歳が負傷し柏崎野戦病院で8月14日死す。

8月2日五十嵐河畔の戦いに敗れた同盟軍は加茂と下条村の字大原の台場に撤退する。同盟軍は加茂近辺に各藩毎に兵士を配備し官軍の追跡に備えていた。上保内字腰巻三王山古墳群の下辺りに会津兵、下条村大原の台場に桑名兵、加茂新田に会津、加茂南部に会津兵をそれぞれ配備していた。

8月3日官軍先方隊が同盟軍を追い、上保内村腰巻を通過の時、待ち受けた同盟軍会津兵と刃戦となり剣術が苦手の官軍は「藁にお」を造り逃げると見ている語が残っている。この戦で官軍7名が戦死している。戦死者は縦の大木の下に埋め、後で遺体と遺品を持ち帰ったと長老の語である。部落では若い男衆が集まり、同盟軍に味方するか、官軍に味方するか決めていたようです。官軍の味方は弾薬運びだったそうです。中には軍資金を運んだ人もいました。軍資金の運搬は警護付きで厳しかったとか女や子供達は山の沢に隠れ、若い女や子供は中に年寄りや外側を固め戦いの終わるのを待っていたようです。大砲の攻撃が始まると婦人や年寄りや声を立てて「万歳ろく万歳ろく」と繰り返し叫んでいたそうです。「万歳ろく」は唱え言葉で恐怖の時に救いを求める言葉です。

8月4日薩摩兵120人天神林に入る。長州軍加州（加賀藩）計170人となる。

午後3時 下条字大原の台場を中心に戦闘開始され大変な激戦であった。部落の若者達は家